

地域学科 地域創造コース

募集予定

10人

わたしの
AO入試
(現 総合型選抜)



いつか故郷に還元できる知識を、鳥大なら学べる!

僕は地元の三重県伊賀市を誇りに思っていて、「伊賀市を支える名アクターになる」というのが将来の夢。そのためにも一度地元を外から眺めてみたいと考え、県外の進学先を模索していました。鳥大に地域学部があると知り、高3の夏オープンキャンパスに参加。地域へ出かけて調査研究を行うフィールドワークの授業やAO入試があるという話を聞いて、「ここだ!」と直感しました。すぐさま受験態勢に入り、出願締切までの約1か月間は志願票作成と面接練習に全集中。早速、志願票に小さな字でズラッと書いていたら、国語の先生が「読む気が失せる」と一蹴。文字サイズ、漢字と平仮名の使い分けなども気にしながら、読みやすく伝わる文章を心がけました。

苦手分野はほとんど練習、得意分野は楽しみながら

2次の課題論文対策は、まず地域に関する本をたくさん読むことから始めました。そして次に、記憶を頼りに本の要約を書く練習。ポイントを押さえて、初めて読んだ人でも理解できるようまとめることに注力。文章を書くのは不得意だったけど、何度も練習して少しずつ克服していきました。

逆に、人前で話すのは得意分野。グループディスカッション対策はルールやコツを把握する程度でした。本番のテーマは、町内会の必要性や役割について考えるというもの。ディスカッションが楽しくて、まるで地域学部の授業を受けているみたいな感覚に。「やっぱり入学したい!」と、思いが強くなったのを覚えています。

3年

もりた こうしろう

森田 恒志郎さん (三重県立上野高等学校 出身)

MY
FAVORITE
"TOTTORI"

人と人のつながりにほっこり

様々な地域活動を行う中で、鳥取の皆さんと仲良くなりました。旬の野菜やお米をお裾分けしてくださることも。あったかい心遣い、人と人のつながりにホッとします。

全文は
Webで!



第2次選考

選抜のポイント、面接・論文等の出題例等

- 2021年度総合型選抜がどのように行われたかについて、学部・学科・コースの募集単位別にポイントや出題例を示したものです。
- 2022年度総合型選抜が下記のように行われるということではありませんので、ご注意ください。

全体を通して
求める力

自らの地域の発展に貢献できるキーパーソンに成長するための、地域の諸問題への高い関心や行動力、あるいは問題解決に取り組むユニークな発想力とリーダーシップなどが求められます。

| | |
|------------------|---|
| スクーリング | 講師(1名)が「暮らしを守るしくみ」についての講義(60分)を行い、その後、受験者との質疑応答(30分)を行いました。 |
| 課題論文 | スクーリングの内容に関連した設問(2問)に90分で解答するものでした。設問の内容は、スクーリングで説明された「攻めの視点」「守りの視点」に着目して講義内容を要約する問1(300字以内)と、問2「暮らしを守るしくみ」をふまえて、これまでのあなた自身の暮らしについて考えたことを記述するもの(600字以内)でした。 |
| グループ ディスカッション | 8人ずつ3グループに分かれ、1グループあたり45分で討議を行いました。テーマは「元気な過疎地域づくりをどう進めるか」で、スクーリングの内容をふまえて、過疎地域の現状について確認した後、元気な過疎地域づくりの方策に関するグループ案を練り上げました。 |
| 個人面接 | 3名の面接官による、1人あたり20分の面接を行いました。 |

●選抜方法と求める能力の関連

| 選抜方法 | 知識・技能 | 思考力・判断力 | 表現力 | 主体性・協働性 | 創造性 |
|------------------|-------|---------|-----|---------|-----|
| 2次(書類審査) | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 2次(スクーリング) | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 2次(課題論文) | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 2次(グループディスカッション) | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 2次(面接) | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |